

| | | | | | | | |
|------|--|----|----|------|---|-----------|----|
| 授業科目 | 教育原理 | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
| 単位 | 2 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 杉谷 修一 | | | | | | |
| 授業概要 | この講義は教育に関する基礎的概念、理論、歴史および現代的諸課題について学び、教育に関する体系的知識の習得を目指すものである。これらの学習を通じて、教育の意義・目的についての理解を深め、幼児教育を志す者に不可欠な教育学的な思考と態度を習得する。現代的教育課題については、調査資料・報告書などを読み取りながら、実態の理解とそれに対する方策について学ぶ。 | | | | | | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|--------------|---|
| 標準的レベル | (1) 教育の意義と目的について簡単に説明できる。 (2) 教育の基礎的概念と諸理論の基礎を理解できる。 (3) 日本および諸外国の教育制度を簡単に理解できる。 (4) 生涯学習社会に向けた教育のあり方の概要を理解できる。 (5) 現代社会における教育問題の概要を理解できる。 (6) 上記の項目について、特に幼児教育の領域に関し基礎的な理解ができる。 |
| 理想的レベル | (1) 教育の意義と目的について十分に説明できる。 (2) 教育の基礎的概念と諸理論を理解できる。 (3) 日本および諸外国の教育制度を理解できる。 (4) 生涯学習社会に向けた教育のあり方を十分に理解できる。 (5) 現代社会における教育問題の概要を十分に理解できる。 (6) 上記の項目について、特に幼児教育の領域に関し十分に理解できる。 |

| 評価方法・評価割合 | | |
|------------------|----------|----|
| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
| 試験 | 0 | |
| 小テスト | 0 | |
| レポート | 100% | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 0 | |
| レポート外の提出物 | 0 | |
| その他 | 0 | |

| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-------------|----------|
| DP1 | ○ | DP2 | - | DP3 | ○ | DP4 | - | DP5 | - | ナンバリング | WE21604J |
| 学習課題（予習・復習） | | | | | | | | | | 1回の目安時間（時間） | |
| 予習 ・Google Classroom に掲示する資料（配布スライド資料、参考資料、動画リンク等） を活用する。 復習 | | | | | | | | | | 4 | |

| | |
|---|--|
| ・予習で使用した資料に加え、授業中に指示した資料を活用し、興味、関心、疑問点を調べる。 | |
| 授業計画 | |
| 第1回 | 教育とは何か 日常用語としての教育から出発し、さまざまな社会や文化において人間形成の役割を担うものであることを概説する。 |
| 第2回 | 西洋教育の歴史と思想（1）古代社会の教育 古代メソポタミアの書記学校、古代ギリシアやローマの市民教育などを取り上げ、現代とは異なる教育のあり方について概説する。 |
| 第3回 | 西洋教育の歴史と思想（2）中世社会の教育 キリスト教文化を背景に、教会や封建社会との関係の中で展開した教育について概説する。 |
| 第4回 | 西洋教育の歴史と思想（3）近代社会の教育 産業革命、市民革命、宗教改革、国民国家の成立など近代化の過程で成立した教育について概説する。 |
| 第5回 | 日本教育の歴史と思想（1）古代・中世社会の教育 官僚養成や貴族の子弟に向けた教育から、武士の台頭と庶民教育の萌芽などについて概説する。 |
| 第6回 | 日本教育の歴史と思想（2）近世社会の教育 身分制社会を土台とした庶民教育である寺子屋と村落共同体の社会化機能について概説する。 |
| 第7回 | 日本教育の歴史と思想（3）近代社会の教育 明治期に見られる国民国家の成立と近代公教育制度の役割について概説する。 |
| 第8回 | 諸外国の教育制度 日本と比較しながら諸外国の教育制度や教育改革の動向などについて概説する。 |
| 第9回 | 日本の教育制度と生涯学習体系 生涯学習前史から現代の生涯学習社会への変遷を追い、学校教育を含めた大きな教育のあり方について概説する。 |
| 第10回 | 現代における教育課題（1）不登校 文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」「不登校の要因分析に関する調査研究」等を手がかりに、不登校問題の現状と対策について概説する。 |
| 第11回 | 現代における教育課題（2）いじめ 文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を手がかりに、いじめ問題の現状と対策について概説する。 |
| 第12回 | 現代における教育課題（3）貧困 内閣府「子供の生活状況調査の分析」を手がかりに、子ども及び保護者の貧困の実態と教育との関連について概説する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 第13回 | 現代における教育課題（4）情報化 Society5.0と呼ばれる、全ての人々が情報化社会に組み込まれる変化が起きている。このことが子どもと教育に与える影響について概説する。 |
| 第14回 | 現代における教育課題（5）教育格差 教育機会、教育環境、教育達成（学力や学歴）など多岐にわたる教育格差の問題について概説する。 |
| 第15回 | 授業のまとめ これまでの内容を振り返り、学生自身の興味・関心から教育を捉えなおし、更に学びを深める手がかりを得る。 |
| テキスト | 木村元・汐見稔幸『アクティベート教育学 01 教育原理』ミネルヴァ書房 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 文部科学省『学制百年史』 国立教育政策研究所『我が国の学校教育制度の歴史について』 文部科学省「諸外国の教育統計」 文部科学省『令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について』 文部科学省『生徒指導提要（令和4年改訂版）』 内閣府『令和3年子供の生活状況調査の分析 報告書』 米国国務省国際情報プログラム局『早わかり「米国の教育」』 文部科学省『諸外国の教育動向』 その他、Google Classroomにて掲示する資料を参照のこと。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 課題・質問等への回答は以下のように行う。 (1) 授業中に全体に説明する。 (2) Google Classroomに掲示する。 (3) メールでの質問は本人への回答を基本とするが、許諾があれば全体で共有する。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | 誰でも自分だけの教育経験をもっています。それは友人や家族のものと共通するところもあれば、異なっていることもあります。学校、教師、子どもなどについてイメージだけで決めつけずに、様々な角度から特徴を理解することが大切です。そのためには思想や歴史、制度についての学問を活用してください。 また、普段から疑問に思っていること、こうであればいいのにという思いを手がかりに、現代の教育課題を考えてみてください。みなさんたちの率直な疑問や意見を反映しながら授業を進めていきたいと考えています。 |

